

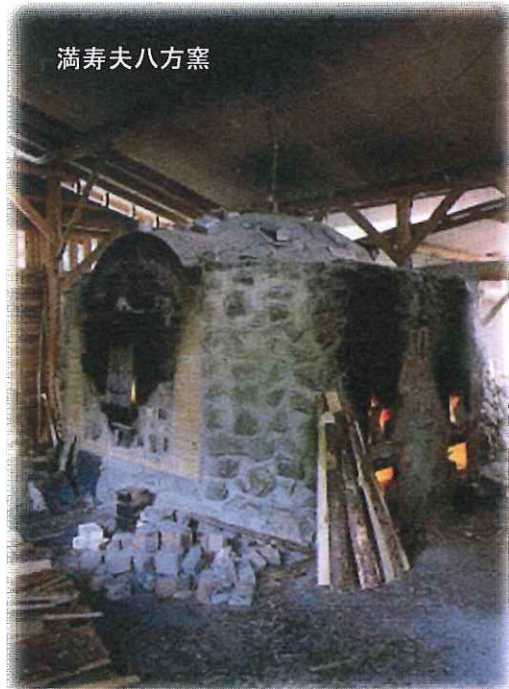
マスミの「増穂登り窯・陶芸教室」 作品を焼成する 「増穂登り窯」のご紹介



増穂登り窯主宰
太田治孝氏

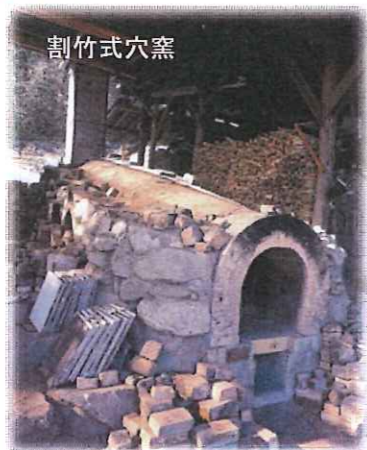
富士山を臨む山梨県櫛形山の中腹にある「増穂登り窯」。1990年に築窯。故池田満寿夫氏の八方窯や登り窯、単窯、地下式穴窯等8つの窯があります。地球環境を考慮し、木の成長を妨げる「間伐材」の薪を使用して、作品を焼成しています。あなたも、マスミ道場の「増穂登り窯・陶芸」に参加して、本格的な「増穂登り窯」で焼いた作品を手になしてみませんか？

■こだわりの8つの窯のご紹介



満寿夫八方窯

「火裏のない作品を焼きたい」という池田満寿夫氏の願いによって作られた。5か所から同時に薪をくべる窯。大物の焼成が可能。



割竹式穴窯

斜面に、半分に割った竹を伏せたような形状をしている。おもに焼き締め作品（備前など）を焼成している。



地下式穴窯

志野など、ゆっくりと徐冷する作品の他にも、釉もの、焼締を焼く。地面を掘ってつくる穴窯と違い、もともと斜面だったところを一度L字型に掘削し、窯を作り、再び埋めてある。



小型穴窯
(マイキルン)

地下式穴窯と構造は同じで、規模を縮小したもの。築窯氏の手を借りずにアマチュアだけで築いた窯。



単窯

1室の窯。灰があまり被らないので、茶碗など、使い勝手の必要とされているものを焼くのに適している。現在は塩釉用で使用している。



登り窯

燃焼室でも灰被りが取れるようになっている。手前が灰被り、後ろの2室が釉ものというように部屋によって効率よく使い分けている。



炭化窯

炭化焼成のための窯。二度焼きなどに使う。直焰（ちよくえん）式の構造。

赤絵窯

有田の赤絵窯を再現したもの。

■焼成中の窯の様子



窯や煙突から炎がでる様子は圧巻です！



※窯の中(1200度！)の様子



窯の中は1200度前後に保たれています。



1週間以上、24時間休み無く薪をくべ続けます。(焼成日数は都度都度異なります)



定期的に窯からテスト用の陶器を出しては、出来具合を確認します。→そして完成！



■増穂登り窯の裏山には、パワースポットの大杉が!!

増穂登り窯のすぐ裏てにある武田家や徳川家康ゆかりの氷室神社の大杉。樹齢千年で、幹周 8.7m 樹高さ45mエネルギーがすごい場所です。増穂登り窯においての際は、ぜひ立ち寄っていただけることをおすすめします。

こんなに素敵な増穂登り窯で焼成する、マスミの陶芸教室に参加してみませんか？

＜お申込・お問合せ＞株式会社マスミ東京
東京都豊島区巣鴨4-5-2 TEL:03-3918-5401 FAX:03-3918-8666 E-mail: info@masumi-j.com http://www.masumi-j.com